

## B-3

### 理由を表すことに用いる「Vテミロ」について

富山晴仁

(四国大学) h-tomiyama@shikoku-u.ac.jp

#### 要旨

本発表では、理由を表す文脈で使用される、補助動詞「～てみる」の命令形を用いたVテミロに関して、小説などから採取した用例やアンケートの調査結果を中心に議論する。このようなVテミロの用法は、「どうして」等の疑問詞で理由を聞かれた際にVテミロで返答することや、「だって」と共起することで確認することができる。「だって」との共起は、条件命令のVテミロの場合でも可能である。テミロに前接する主動詞Vについては、用例やアンケート調査の結果に基づいて、Vが知覚・認識動詞の場合はテミロがなくとも容認可能であるが、そうでない場合は必須であることを示す。これは「～てみる」、特に「疑問節+～てみる」に関する先行研究で主張されている「～てみる」の「認識」機能で説明できることを指摘する。さらに、英語の「because+命令節」とVテミロとの類似点も示す。

#### 0. はじめに

理由を表す際に、補助動詞の「～てみる」の命令形のテミロを主動詞Vに付加したVテミロが用いられる場合がある（本発表のテミロは丁寧表現の「～てごらん」も含めるものとする）。(1)は夏目漱石の『三四郎』からの一節である。理由を尋ねている個所には下線を、Vテミロの個所には枠囲いを施している。（紙幅の関係上、以降の用例は全て改行をしない形で掲載する。）

(1) 一応理由を聞いてみる。与次郎は懐から皺だらけの新聞を出した。二枚重なっている。その一枚を剥がして、新しく畳み直して、此处を読んでみると差し付けた。

理由を言葉では述べることはしないが、新聞を読んでもらえば理由が分かるということである。このような文脈で使用されているVテミロは、小説やドラマの脚本、会話の書き起こし、ネットに投稿された文章などで見つけることができる。

#### 1. 用例

(1)以外でも次に挙げる(2)-(4)のように、理由を尋ねられてVテミロで答える例が小説等で見られる。中には(3)の「蟹はどんどん膨らんでいるぞ。…」のように、Vテミロの直後に理由を具体的に述べているものもある。具体的な理由が発話されている部分は網掛けを施している。

(2) 「それにな、場所が吾妻橋というのは、不審いだらう」「どうして」「考えてみるよ」

(3) 「この槍はどうやって仕舞うんだ」「左のハンドルを手前に回すんだけど……どうして?」「見てみるよ。蟹はどんどん膨らんでいるぞ。下手に槍なんか刺したままだと、引き込まれる」

(4) 夏向「なんであんな奴雇ったんだよ」（途中省略）千秋「食べてみるよ、櫻井のケーキ」夏向「（千秋を見る）」千秋「そうすればお前にもわかるよ」

理由を導く接続詞の「だって」と共起している例も存在する。以下の例において「だって」には二重下線を引いている。

- (5) 「いやいや。和也ほど適任はいないよ (途中省略) だって、よく考えてみるよ。和也は毎日、服に触れてるだろ？お客さんは近所の人が多いだろうけど、若い女性がいないわけじゃない。…」
- (6) 「そうかね」「だって考えてもごらんなさいな、大和屋の旦那。お嬢さんはその長吉って帳場さんにぞっこんなんでしょう」
- (7) 木村「……ヨーロッパ人にとっては南北のほうが大事なんですよ。」山崎「中国はどっちでもないんですよ。だってマージャン見てごらんなさい、東南西北 (トンナンシャーペー)…… (爆笑)。」
- (8) 「…だけど、おれなんか中学 2 年だど、まだネションベンなんかするかあ？」「だって臭い嗅いでみるやあ」「ああやっぱり臭せえ、こりゃ本物だ」

「だって」は「理由説明」に加えて「正当化」の機能を持つので (嶺田・富田 2009)、必ずしも V テミロと共起できるわけではないのだが ((1)で「だって此处を読んでみる」とすると不自然)、(2)(3)の V テミロにも「だって」の付加が潜在的に可能であると思われる。

「だって」が V テミロの節に付加できる事実は、V テミロが理由を表すことに関わっている統語的な証拠となっている。特に注目すべきは、具体的な理由を表す言語表現が「だって V テミロ」に後続する別の節として現れている点である。さらに(8)では「だって V テミロ」が現れているだけで、具体的な理由は言語化さえされていないのである

このように「だって」が V テミロと付加した場合は、(9)のような構造になっていると考えられる。(9)では、V テミロの現れる節 1 だけでなく、それに続く節 2 も「だって」の補部の中に存在している。節 2 にあたる個所が言語化されていない(8)のような場合が問題となるが、ここでは、臭いを嗅ぐことによって得られるはずの情報が、節 2 の代わりになっていると仮定する。

- (9) [だって [節 1 (V テミロ) ] [節 2 (言語化された理由) ]]

ところで(10)のように、「だって」が V テミロではなく理由を述べている節に付加している例も存在する。このような場合は、節 2 だけが「だって」の補部に現れていると考えられる。

- (10) 「どこが慈悲ですか。それに僕ア正論を述べてます」「セイロン？紅茶か。あのな、善く考えてみる！だって殺しちゃったら相手は死ぬんだぞ。死んだら楽だろうが。…」

## 2. 条件命令の V テミロ

V テミロは、「一步でも近づいてみる、撃つぞ」などの文で見られる条件命令として機能することがあり、吉川(1975)や長野ゆり(1995)等で議論がなされてきた。この条件命令の V テミロも理由を表すことができるとされる。次の(11)(12)で使われている V テミロは、その実現が望まれていないことや「も



知覚動詞でない「食べる」の命令文となっている。いずれも理由を尋ねる A に対して B1 はテミロが無い形、B2 は V テミロの形で答えている。「自然」「やや自然」「やや不自然」「不自然」の右横に、それぞれの評価をした人の数を記している。

(16) A: どうして彼は怒っているんだ?

B1: 自分のしたことを考えろ (自然 4 やや自然 6 やや不自然 1 不自然 1)

B2: 自分のしたことを考えてみろ (自然 12 やや自然 0 やや不自然 0 不自然 0)

(17) A: どうして彼は僕を見て笑ってるんだ?

B1: 鏡を見ろ (自然 4 やや自然 6 やや不自然 1 不自然 1)

B2: 鏡を見てみろ (自然 12 やや自然 0 やや不自然 0 不自然 0)

(18) A: どうして太郎は高級レストランに雇われたんだ?

B1: 彼が作ったものを食べろ (自然 0 やや自然 2 やや不自然 3 不自然 7)

B2: 彼が作ったものを食べてみろ (自然 11 やや自然 1 やや不自然 0 不自然 0)

テミロが無い場合、認識動詞である「考える」と知覚動詞である「見る」は、「自然」「やや自然」が計 10 名であった。この結果は(13)-(15)のような用例が存在することと矛盾しないものである。逆に「食べる」は「やや不自然」「不自然」の合計が 10 名という結果になった。また、知覚・認識動詞の場合でもテミロがある方が自然さが増すとの結果が得られた。

#### 4. 先行研究と考察

##### 4. 1. 義務的なテミロ

(16)-(18)の調査結果から、知覚・認識動詞の場合はテミロが必ずしも必要ではなく、一方、知覚・認識動詞以外の動詞の場合はテミロが必要であることが判明した。「～てみる」に関する先行研究では、吉川(1975)が「あることを知るために動作をすること」の意味があると論じている。また田中(1997)、田中(2000)、成(2012)等では「～てみる」の意味に「認識」が伴っているとの指摘がなされている。特に高橋(1969)は「命令するかたちになるばあいには、話し手の知覚・認識する条件をつくるための動作を聞き手にやらせることをあらわすものがある」と述べている。したがって「食べる」のような「知る」の意味や「認識」の意味が無い、あるいは希薄な動詞であっても、テミロが付加することで動作の実行を命じるだけでなく、その動作の実行によって判明する「理由」を「知る」あるいは「認識」させようとする意味が加わるのだと考えられる。一方、知覚・認識動詞の場合は、それ自身に知覚、認識の機能が備わっているので、「～てみる」の命令形であるテミロが必ずしも必要ではないことになる。

このような「～てみる」の機能は、疑問節が文中に現れる表現で確認することができる。石川(1985)は、「～かどうか」の疑問節に後続する動詞には補助動詞「～てみる」が必要であると述べている。(19)では、(18)の調査でテミロがあった方が自然であると判断された動詞「食べる」が使用されている。

(19) a. 甘いかどうか、ちょっと食べてみました

b. \*甘いかどうか、ちょっと食べました。

(石川 1985: 36)

また富岡(2016)は「食べる」が疑問詞「どんな」の現れる疑問節に後続する(20a)を挙げている。三宅

(2017)は、この文に「～てみる」を加えれば(20b)のように文法的になることを指摘している。

(20) a. ??辛さがどんな具合か、そのカレーを食べて下さい。 (富岡 2016: 65)

b. 辛さがどんな具合か、そのカレーを食べてみて下さい。 (三宅 2017: 73)

石川(1985)は、「実際 [～てみる] の形式が用いられている文には、『知るために』とか『知りたいから』とか『調べるために』という意図が隠されているようだ」と述べている。富岡は(20a)のような「目的性従属疑問文は、『新しい情報を得る』という目的の存在が動詞句レベルで含意されているものとのみ共起できる」との一般化を行っている。そして三宅(2017)は、(20a)のように「～てみる」が文法性を改善する例を(20b)以外にも挙げた上で「...富岡(2016)の一般化における、『新しい情報を得る』ということと、“～テミル”に相関性があることを示している」と述べている。

これら先行研究を踏まえると、「食べる」に命令形のテミロを付加することで、聞き手に理由を「知る」ようにさせたり「調べるようにさせたり」、理由に関する「新しい情報を得る」ようにさせたりする機能が生じるのだと考えることができる。

#### 4. 2. 随意的なテミロ

次に知覚・認識動詞とテミロの関係を考える。知覚・認識動詞の命令形に、何らかの認識を指示する意味が内在されているのであれば、同じく認識することを指示するテミロの付加は不必要なはずである。しかしながら実際は(13)-(15)のようなテミロの無い知覚・認識動詞の用例を見つけることは難しい。

随意的であるが現れる方が自然という現象が、ここでも再び「疑問節+～てみる」の「～てみる」において見られる。田中(2000)は、疑問節に後続する動詞が認識や思考の動詞である場合は、「～てみる」がなくてもよいことを指摘するとともに、「しかし実際には、疑問節を支える認識や思考の動詞があってもさらに『てみる』が生起することがしばしばである。」「実際、疑問節は『てみる』の生起を強く促す傾向がある」と述べている。(21)は疑問節に後接する「調べる」に「てみる」がある例と無い例である((21)は疑問節が名詞節になっている点において(19)(20)と異なる統語構造を持っている)。

(21) a. 千年前のアラブたちが、どんな材料や調味料を使っていたかを丹念に調べてみた。

b. 遺跡が掘り出されたあと、ダーウィンはその表面にミミズの行為の跡がないかどうかをよく調べた。 田中(2000:102)

田中(2000)は、このような「～てみる」を「報告者の現場性」の観点から分析しているが、本発表では、Vテミロと「疑問節+～てみる」の両方で補助動詞の出現が促されるという類似点が見られることを指摘するととどめ、その原因に関する考察は別の機会に譲ることとする。

#### 5. 英語との比較

本節では英語でも命令節が理由の伝達に関与する場合があることを示し、Vテミロとの類似性を指摘する。英語の場合は、because節内に命令節が現れるという「従属節における主節現象」の1つとして80年代より議論されてきた。(22)はLakoff(1984)からの例である。

(22) I'm staying because consider which girl pinched me.

(Lakoff 1984: 476)

Lakoff は(22)が成り立つ前提として、聞き手が“which girl”を誰のことか知っている必要があるとしている。つまり because 節に修辞疑問となっている“which girl pinched me”が存在し、それが理由を表しているのである。しかしながら富山(2018, 2020)は、because 節内に具体的な理由を述べている節が存在せず、命令節だけが現れる場合があることを指摘している。以下の例は小説の一節からのものである。(23)は、“her”にあたる人物がいないところでなされている発話なので、同文中の“look”は知覚ではなく認識の意味で使われている。一方、(24)の“look”は発話者の動作を見させようとする知覚の意味で使われている。

(23) “...she didn't harm the person because look at her hands. The only thing on her hands is her own blood...”  
(*Death of a Dream*)

(24) ‘But how long does it take to diffuse an atomic explosion? Tell me that? It had better be soon enough, because look at this.’ He cupped his hand and turned it upside down, flicking his gaze from the ground to the TARDIS as a small cloud of sand lifted itself from the dusty road and ascended towards his palm,...  
(*Doctor Who: Nuclear Time*)

(23)では、because が具体的な理由を述べている“The only thing...”ではなく、命令節の方に付加している。この点は、「だって V テミロ」と類似した統語構造を示している。また(24)では、(8)と同様に理由が言語化されていない。実際に知覚の行為を行わせること ((8)は布団の匂いを嗅がせること、(24)では発話者の動作を見させること)で、理由を伝えようとしているのである。(23)や(24)と同様の例は、小説やコーパスで見つけることができる(富山(2018, 2020))。

理由を導入する接続詞「だって」と because の分布に加えて、動詞の制限に関しても V テミロと「because+命令節」で共通する部分が存在する。Takahashi(2012)は、because 節内に出現している命令形の動詞が認識動詞であることを指摘している。富山(2018)は認識動詞に加えて、知覚動詞が使用されている(24)のような例を紹介している。また、鷲野(2016)は Let's~に関する研究の中で、*let's face it* のような慣用表現以外の場合、because let's~に後続するのが「思考に関わる動詞、会話の進行に関わる動詞である」と述べている。知覚・認識動詞の観点から、命令形で理由を表す文を日英語で比較した場合「知覚・認識動詞は、日本語ではテミロが必ずしも必要ではなく、英語では because 節内に出現することが可能である」という記述を行うことができる。

## 6. まとめと展望

理由を表す際に用いられる V テミロの存在を示したうえで、その特徴を用例やアンケート調査の結果を交えながら議論した。また、先行研究で指摘されている「疑問節+~てみる」文における「~てみる」と V テミロのテミロが、類似した分布を見せることを見た。理由を表す V テミロは「どうして…か V テミロ」といった「疑問節+~てみる」文に置き換えることも可能であることから、今後は両文を統一的に議論していく可能性も考えられる。さらに、英語の理由を表す命令節と比較した場合、「だって」と because が命令節に付加することや、知覚・認識動詞か否かの差が重要であることにおいて、類似して

いることも見た。今後は、V テミロの研究で得られた知見と、「because+命令節」の研究で得られた知見を、相互に反映させながら研究を進めていく可能性も考えられる。

## 参考文献

- 石川守(1985)「～てみる」と「～しようとする」に関する一考察『語学研究』41, 29-55, 拓殖大学
- 成知炫 (2012)『現代日本語の補助動詞—「してみる」と「してみせる」の意味用法の記述的研究—』東京外国語大学大学院地域文化研究科博士学位申請論文
- 高橋太郎(1969)「すがたともくろみ」金田一春彦(編)『日本語動詞のアスペクト』:117-153 むぎ書房
- 田中聡子(2000)「～てみる」の意味記述の試み『言葉と文化』1:93-110 名古屋大学大学院国際言語文化研究所
- 田中千景(1997)「～てみる」の機能について『国語学会平成9年度春季大会要旨』:116-123, 国語学会
- 富岡諭(2016)「目的性従属疑問文の解釈と構造」『日本言語学会第153回大会予稿集』64-69, 日本言語学会
- 富山晴仁(2018)「Because節内に現れる様々な命令文について」『日本英文学会第90回大会Proceedings (中国四国支部第七十回大会)』277-278, 日本英文学会
- 富山晴仁(2020)「Because節内に現れる命令文の変遷—17世紀から現代まで」『日本英文学会第92回大会Proceedings』  
<http://www.elsj.org/backnumber/proceedings2020/proceedings-tomiyamaharuhito.pdf>, 日本英文学会
- 長野ゆり(1995)「シロとシテミロ」宮島達夫・仁田義雄(編)『日本語類義表現の文法(下)』:655-661 くろしお出版
- 長野ゆり(1998)「仮定を表す「～てみる」の用法について」『日本語教育』96:号 143-153, 日本語教育学会
- 嶺田明美、富田由布子(2009)「接続詞「だって」の談話における機能」学苑(826), 29-41, 昭和女子大学近代文化研究所
- 三宅知宏(2017)「日本語の発見構文」天野みどり・早瀬尚子(編)『構文の意味と広がり』65-78, くろしお出版
- 吉川武時(1975)「～てみる」の意味とそれの実現する条件」『日本語学校論集』2, 36-51, 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 鷺野亜紀(2016)「Let'sにおける文副詞的用法及びその拡張について」『日本言語学会第153回大会予稿集』224-229, 日本言語学会
- Lakoff, George(1984) "Performative Subordinate Clause." *The Berkeley Linguistics Society* 10, 472-480.
- Takahashi, Hidemitsu(2012) *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative*, John Benjamins Publishing Company

## 用例出典

- (1)『三四郎』pp.244-245、夏目漱石、新潮文庫 (2)『刺青白書』p.69、樋口有介、創元推理文庫 (3)『暗黒は我を蔽う夜の騎士』p.244、朝松健、GA文庫 (4)『公式シナリオブック 好きな人がいること』p.29、桑村さや香・大北はるか、LINE株式会社 (5)『切れない糸』p.193、坂木司、創元推理文庫、(6)『腹鼓記』p.141、いのうえひさし、新潮社 (7)『ALL REVIEWS 尾崎 幸男『地図のファンタジア』(文藝春秋)|丸谷オ一+木村尚三郎+山崎正和の読書鼎談』2019/06/04、<https://allreviews.jp/column/3367> (最終閲覧日:2021/05/10) (8)『群馬で生まれ育った男のブログ』2017/06/12、<https://gunmaotoko.exblog.jp/237083211/> (最終閲覧日:2021/05/10) (10)『百器徒然袋一雨』p.104、京極夏彦、講談社文庫 (11)『はぐれ長屋の用心棒 18 はやり風邪』p.17、鳥羽亮、双葉文庫 (12)『本所おけら長屋(十)』p.249、畠山健二、PHP文芸文庫 (13)『愛と幻想のファシズム(上)』p.28、村上龍、講談社文庫 (14)『図書館迷宮と断章の姫君3』p.17、おかざき登、MF文庫 (15)『にほんご単語ドリル～慣用句・四字熟語～』p.23、倉品さやか、アスク出版 (23) *Death of a Dream* p.18, Paul LaRosa and Erin Moriarty, Pocket Star Books (24) *Doctor Who: Nuclear Time* p.87, Oli Smith, BBC Books